1.　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成 22年 5月6日

【評価実施概要】

事業所番号	2693100022
法人名	株式会社　キャビック
事業所名	キャビックケアホームすぃーとハンズ向日
所在地	〒617－0006　京都府向日市上植野下川原46－4 （電　話）075－925－1267

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1　ひと･まち交流館　京都1階		
訪問調査日	平成22年3月18日	評価確定日	平成22年5月7日

【情報提供票より】（平成22年1月31日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　20　年　1　月　20　日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	17　人	常勤　13　人，非常勤　4　人，常勤換算　16.0　人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3 階建ての　2～3　階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	82,300　円	その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　　）　〇無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	〇有（　36万円　） 〇無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食　400　円	昼食	700　円
	夕食　800　円	おやつ	100　円
	または　1日あたり　円		

（4）利用者の概要（　1　月　31　日現在）

利用者人数		18 名	男性　1 名	女性	17 名
要介護1		2　名	要介護2	4	名
要介護3		8　名	要介護4	4	名
要介護5		0　名	要支援2	0	名
年齢	平均	84.5 歳	最低　72　歳	最高	92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	九条病院　川勝内科医院　本田歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

向日市の南部、長岡京市に近いところの西国街道の古い町並みに建っているホームである。向日市は認知症理解や介護相談など、種々の取り組みをしており、当ホームの専門性の地域貢献ができている。古い土地柄であるが気軽に来訪する住民もあり、今後も地域住民への理解がさらに進むことが期待できる。家族は面会も多く、行事参加もあり、認知症への理解を深め、運営に協力してもらえる展開が期待できる。この1年職員の入れ替わりがあり、新人職員も含めて認知症理解の取り組みが望まれる。管理者は高齢者や認知症に理解が深く、利用者を一人ひとりり異なる文化をもっており、人生の先生だと考えており、それをホームのケアの柱としている。誕生日に希望を聞き、ロームのライトアップへのドライブ、都若丸新春公演の観劇、外食等に連れて行ったり、小倉山荘でハッピーバースデイをしたり、居酒屋で酒を酌み交わしたり、その人らしい個別ケアに取り組んでいる。利用者はお互いにおしゃべりしたりし、自由に過ごしている。

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回の評価以後の改善点としては記録の書式を改善したこと、研修を充実させたこと、ホーム内の雰囲気の改善に努めたことなどがあげられる。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 今回の評価について、職員ミーティングでその意義を説明し、自己評価はリーダーが中心となって意見を聞いてまとめている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 家族、民生委員、自治連合会会長、地域包括支援センター職員、地区社協職員、向日市高齢福祉職員等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。記録は全家族に送付している。もっと地域に知ってもらったほうが良いとの意見があり、向日市の「介護の日」の事業として当ホームが見学と介護相談を受け入れており、4組の家族が来訪された。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 誕生会、おひな祭り、花見、観劇などの行事は家族に案内しており、家族が参加されている。運営推進会議のあと家族会を開催し、お茶を一緒にしながら、家族交流が進んでいる。夏祭りに協力していただいたり、花壇に花を植えていただいたりして、家族の協力が得られている。ホームが終の棲家になるのか、それが心配であるというのが家族の意見である。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 町内会は加入できないが、近所の人は気軽に来訪され、花や野菜をいただく。近所の子どもたちがホームの前でよく遊んでいるので、交流している。おはなし、人形劇、マジック、琴や琵琶の演奏などの地域のボランティアが来訪してくれる。大家さんとは日常的にお付き合いしており、隣接の旧家で雛人形などを見せてもらっている。

2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、ホーム独自の理念をつくりあげている	「慈しみをもって寄り添い、その人らしい生活がこの地域で送れますように支えます」という、法人の理念がある。この理念をホーム内に掲示し、パンフレットに明記し、家族にも説明している。法人の理念を踏まえてグループホームの理念を作成したいと考えているが、まだつくられていない。	○	法人の理念の踏まえ、地域密着型サービスの意義を含めた当グループホームの理念を、職員等関係者で策定することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者を一人の人間として、それまでの長い人生の経験を敬い、一人ひとりの文化を尊重して接することを、職員は心がけており、利用者の最期のときをここで過ごしてもらうにあたって輝いてほしいと願って、毎日の業務に励んでいる。これは法人の理念を実現するものである。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい ホームは孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会は加入できないが近所の人は気軽に来訪され、花や野菜をいただく。近所の子どもたちがホームの前でよく遊んでいるので、交流している。おはなし、人形劇、マジック、琴や琵琶の演奏などの地域のボランティアが来訪してくれる。大家さんとは日常的にお付き合いしており、隣接旧家の雛人形などを見せてもらっている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価について、職員ミーティングでその意義を説明し、自己評価はリーダーが中心となって意見を聞いてまとめている。前回の評価以後の改善点としては記録の書式を改善したこと、研修を充実させたこと、ホーム内の雰囲気の改善に努めたことなどがあげられる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、自治連合会会長、地域包括支援センター職員、地区社協職員、向日市高齢福祉課職員等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。記録は全家族に送付している。もっと地域に知ってもらったほうが良いとの意見があり、向日市の「介護の日」の事業として当ホームが見学と介護相談を受け入れており、4組の家族が来訪された。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 ホームは、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	向日市の「介護の日」の取り組みにあたり、見学と相談を受け入れている。向日市認知症ケアサポート会議は事業所、地域包括支援センター、民生委員、乙訓医師会が参加し、認知症のサポートの研修を実施しており、それに参加している。向日市の介護相談員を受け入れている。		
4.理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 ホームでの利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は毎日くる人から、3カ月に一度の季節の衣替えにくる人までいろいろであり、面会のたびに情報交換している。ホームで撮った写真は家族にあげたり、ホームでもアルバムをつくって残している。法人のホームページのブログには利用者の様子を書いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誕生会、おひな祭り、花見、観劇などの行事は家族に案内しており、家族が参加されている。運営推進会議のあと家族会を開催し、お茶を一緒にしながら、家族交流が進んでいる。夏祭りに協力していただいたり、花壇に花を植えていただいたりして、家族の協力が得られている。ホームが終の棲家になるのか、それが心配であるというのが家族の意見である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度職員の退職があったり、法人内の新規事業所の立ち上げのために異動したり、産休があったり等々、職員の変動がかなりあり、利用者へのダメージがないように努力が続いている。職員が意欲をもって働き続けられるように、外部研修の受講を積極的に進め、日勤で受講できるように努力している。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員の研修は毎日1カ月間、その日の振り返りノートを書かせ、リーダーがコメントして返している。認知症研修、実践者研修等、外部研修が受講されている。ホーム内の勉強会は毎月2回「認知症を語ろう」として現場に沿った認知症のケアの工夫を話し合っている。資格取得のための勉強会を実施している。職員は半年に1回、目標設定と自己評価を提出している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	乙訓グループホーム連絡会が6事業所で組織され、3カ月に1回、場所は事業所持ち回りで開催し、管理者は研修や交流を行っている。職員は他のグループホームを見学していない。	○	職員が他のグループホームを見学したり、そこの職員や利用者と交流し、時間を過ごすことは、大きな学びとなり、自らのグループホームへの貢献は大きいと思われるので、実施することが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
自で					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前には利用者と家族に見学に来てもらっている。「ここに閉じ込めようと思っているんやろ」という利用者が「私、おかしくなっている。ここが気に入った」となるように、利用者と一緒にいろんなことをしながら利用者を知り、心に寄り添う介護に努めている。利用者が馴染むまでは家族には何度も面会に来てもらっている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護者としては一方的に介護するのではなく、利用者のふところに飛び込むつもりで接している。利用者に許してもらう関係をつくりたいと思っている。利用者のそばにいると、介護者は何もできないが、癒される気がする。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の意向や希望を聴き、東京センター方式でアセスメントしている。医療情報、ADL等の他、4人兄弟の2番目に生まれ、高等女学校を卒業、貿易会社に勤務、25歳で結婚、夫の転勤であちこち引っ越しながら2人の娘を育てる等、生活史が聴取されている。趣味や嗜好の情報も把握している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	訪問面接して利用が決まると、利用者や家族の意向を聴き、アセスメントしている。入居1週間後には暫定の介護計画をたて、1カ月後に確定介護計画を作成している。介護計画は利用者ごとに個別で、具体的であり、「毎週家族と外出」など、生活の楽しみを入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の支援経過はケース記録に残されているが、介護計画の項目にしたがった記録ではなく、利用者の行動記録になっている。介護計画のモニタリングは実施されていない。介護計画の見直しにあたってはカンファレンス会議が開催されているが、意見交換の記録はなく、結論のみが書かれている。	○	利用者の支援経過記録には介護計画の項目にそって、介護を実施したかどうか、実施したときの利用者の発言や様子、実施できなかったときの考察等を記録し、モニタリングの根拠とすることが望まれる。介護計画の見直しにあたってのカンファレンス会議は職員の意見等を記録に残し、介護計画の見直しにつながる記録とすることが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3. 多機能性と生かした柔軟な支援（ホーム及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○ホームの多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の理容や美容はビューティヘルパーが来てくれ、希望する利用者が利用しており、家族が行きつけの美容院につれていく人もいる。地域資源の利用としては近くに古民具を展示しているところがあるので、見に行っており、利用者に好評である。併設の小規模多機能型居宅介護事業所とはもちつきなどの行事を一緒にしたり、一緒に散歩に行ったりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医とホームの関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は職員が同行する場合が多い。家族が同行する場合も、職員が同行する場合も、医療記録に経過を残し、医師からの情報も得ている。内科医も歯科医も往診があり、認知症専門医は洛南病院の医師に相談している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の指針を作成しており、グループホームでできるだけの支援をするが、同時にホームでできないことを明記しており、それをもとに利用者や家族に説明し、同意をとっている。特養を申し込んでいる家族もいる。重度化して入院された場合や老健に入所された場合、職員はこまめに面会に行っている。		
Ⅳその人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室は鍵をかけることができ、かける人もいる。トイレも中から鍵がかかる。トイレ誘導などの声かけは十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は5時半ころ起きる人から10時ころまで寝ている人もあり、就寝も8時に寝る人から部屋でテレビを見ながら遅くまで起きている人まで様々で、利用者のペースである。朝食はもちろん、昼食も寝ていて後から食べる人まであり、暮らしは利用者によっていろいろである。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はその日に利用者の希望などを聞き、立てている。肉、野菜などは配達してもらっており、足りない食材は利用者の買いたいものも兼ねて一緒に買い物に行っている。調理や後片付け等は利用者と一緒にしている。カニ鍋なども楽しんでいる。誕生会や花見の帰りになど、毎月外食をしている。職員も一緒に食べながら会話を楽しみ、食事のときをゆっくり過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭的な落ち着ける浴室である。時間帯は利用者の希望により午前も午後も支援している。少なくとも週に3回は入浴するようにしており、毎日入りたい利用者や夜間に入りたい利用者にも支援している。マンツーマンの同性介助であり、ゆず湯も楽しんでいる。時には併設の小規模多機能型居宅介護事業所の大きなお風呂に、町の銭湯に行く感覚で利用している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は洗濯物たたみ、調理、掃除等の家事の他、荷物を受け取る、夕刊を取り入れる、誕生会で挨拶する等の役割を果たしている。また折り紙、風船バレー、歌、いろはカルタ、紙芝居、福笑い、おはじき、竹トンボ、クッキーづくり、花の手入れ等を日常的に楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 ホームの中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの散歩、お地蔵さんにお参りする、ライフへの買い物等、毎日のように行っている。松尾大社や向日神社への初詣、お弁当をもって正法寺への梅見、勝竜寺への花見、蛍見物、亀岡へのコスモス見物、大枝への柿狩り等、季節のお出かけをしている。利用者が前に住んでいた家に出かけ、仲良しの男性に出会い、楽しいひと時を過ごすという、個別外出にも取り組んでいる。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉はなく、玄関ドアは施錠されていない。エレベーターもロックはなく、自由に使える。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、感知器、通報機、スプリンクラー、防火管理者を備え、消防計画を立てている。消防署が参加しての避難訓練、夜間想定の避難訓練を実施している。2階からダミー人形を毛布にくるんで下ろす訓練もしている。備蓄を準備し、賞味期限等を点検している。火災や非常災害時等に地域住民の協力が得られるように、運営推進会議で議題にすることが期待される。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
階					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の毎日の食事摂取量と水分摂取量の記録が残されている。献立のカロリー値と栄養バランスの記録はない。	○	利用者の食事は体調管理に必要不可欠な情報なので、献立のカロリー値と栄養バランスについて点検し、記録に残すことが望まれる。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前にベンチを置き、プランターに花を植えており、ロビーには観葉植物の鉢がある。エレベーターを出ると、絵の額、小さな飾りなどを置いている。ゆったりとした居間兼食堂があり、食卓と椅子、大きなソファなどが置かれ、ベランダからは土手の景色が見える。トイレのドアには和風の味のある布製のれんがかかっており、レイアウトにもなっている。壁に大きなきれいな柄のスカーフを飾り、やわらかい雰囲気を出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドが備え付けられ、利用者は重厚なタンスや籐のタンス、衣装ケース、テレビ等を持ち込んでいる。絨毯をしいたりして過ごしやすくしている。室内に掛かっているコートや服で利用者の個性が偲ばれる。亡夫の写真と位牌を棚におき、水を毎日備えている利用者もいる。壁には孫の結婚式の写真、家族の写真等を貼っている。夫の写真を10枚くらい貼っている利用者もいる。部屋のドアに暖簾をかけている利用者もいる。		